

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名（ 久居高等学校 ）

1 目指す姿

|            |               |   |
|------------|---------------|---|
| (1) 目指す学校像 |               | 学校生活の充実と確かな進路保障を通じて、生徒・保護者・地域から信頼され、魅力ある学校づくりを推進する。   |
| (2)        | 育みたい<br>児童生徒像 | ○基本的な生活習慣・規範意識を身につけ、何事にも意欲的、誠実に取り組む創造性豊かな生徒。<br>○日々の授業を大切にし、家庭学習等を通じて、学力の定着と向上に取り組む生徒。<br>○積極的に部活動に参加し、技術の向上と役割を担うことにより、責任感と協調性のある生徒。 |
|            | ありたい<br>教職員像  | ○率先して教育活動に取り組む意欲と活力のある教職員集団。<br>○さらに充実した授業・「わかる授業」を実践するために、公開授業や教科内・校内での改善活動を積極的に推進する教職員集団。   |

2 現状認識

|                             |  |  |               |
|-----------------------------|--|--|---------------|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 |  | <p>【生徒】 充実した授業を受けたい。活発なクラブ活動をしたい。進路希望を実現したい。</p> <p>【保護者】 安全・安心の学校生活。卒業後の進路保障。モラルの向上。社会人として自立できる力を育ててほしい。</p> <p>【地域】 公共心とマナーの育成。地域の普通科高校として信頼できる教育を推進してもらいたい。</p>   |               |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待    | 連携する相手からの要望・期待   |  | 連携する相手への要望・期待 |
|                             | <p>【保護者】 毅然とした生活指導を行いながらも、子どもの心に配慮した教育を行なって欲しい。</p> <p>【中学校】 学校の様子、卒業生の近況報告、入試情報などを知らせて欲しい。</p> <p>【地域】 交通マナー、公共の場でのマナーを守らせて欲しい。</p> | <p>【保護者】 本校教育方針への理解と協力。家庭でのしつけと指導の強化。</p> <p>【中学校】 連携を密にとりながら信頼関係を構築していきたい。</p> <p>【地域】 本校の教育活動を理解し、協力してもらいたい。</p>   |               |
| (3) 前年度の学校関係者評価等            |  | <p>○いじめの問題など、生徒1人ひとりによりていねいな対応が必要となっていており、次年度は、面談機会の充実など、より進めていただきたい。</p> <p>○服装頭髪の指導については、指導基準を共有し、教員によって指導に差がないよう、指導を徹底してもらいたい。</p>  |               |
| (4) 現状と課題                   | 教育活動   | <p>○家庭学習の習慣の意識付けをはかるとともに、基礎学力の向上については授業の充実させることに課題がある。</p> <p>○各取組が学校全体の連携した取組になっていないこと、有効な取組が継続的に実施するシステムが十分でないことに課題がある。そのため、各分掌、学年の取組が全体最適になるように連携を深める必要がある。</p> <p>○多様な生徒への対応が求められる中、面談の機会を増やすなど、丁寧な指導体制を確立するとともに、教育相談体制の充実をさせる必要がある。</p> <p>○外部の協力も求めながら、生徒の進路選択の助けとなる研修、セミナー等を一層充実させる必要がある。</p> |               |
|                             | 学校運営等  | <p>○授業改善については、授業見学だけでなく、研究授業や協議、指導要領の変更点については現職教育等を行うことで、周知だけでなく、本校の目指す教育について共通の認識を持つことが課題である。</p> <p>○具体的な活動・成果指標を客観的に計り、改善点を次年度に提示するシステムとなっていない点に課題がある。</p> <p>○教職員の勤務時間の縮減に向けて、業務のスリム化を一層進めるとともに、休業日の増設など、より目に見える形での方策を検討する必要がある。</p>   |               |

### 3 中長期的な重点目標

|       |   |
|-------|---|
| 教育活動  | <p>1. コースの魅力化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツ科学コース、部活動を振興し、その成果を継承・発展させる。</li> <li>○チャレンジコースを含めた普通科全体の教育活動をいっそう充実させる。</li> </ul> <p>2. 進路保障に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習習慣の定着を通じて学力を向上させる。</li> <li>○生徒の進路希望実現に向けて進路指導の内容・体制を充実させ、進路実績の向上を目指す。</li> <li>○規範意識・基本的生活習慣の定着・向上に重点を置いた生徒指導を進める。</li> </ul> <p>3. 人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒、教職員、保護者が差別につながる言動に出会ったときに気づくことができるように個別の人権問題に係わる知識をつける。</li> </ul> |
| 学校運営等 | <p>1. 教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領、高大接続改革への対応</li> <li>○授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力をはじめとする力量向上に取り組む。</li> </ul> <p>2. 地域への発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○広報活動の体制と内容を改善・充実させる。</li> </ul> <p>3. 教職員の働きやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。</li> <li>○部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。</li> </ul>   |

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

| 項目            | 取組内容・指標   | 結果       | 備考 |
|---------------|---|----------|----|
| 1. コースの魅力化    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○チャレンジコースを含めた普通科全体の教育活動をいっそう充実させる。</li> <li>●プロジェクト委員会を定期的で開催し、今後の久居高校の方向性について議論する。 【プロジェクト委員会】</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校に対するニーズを調査する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の久居高校の方向性が明確にできたかどうか。</li> </ul>   | ○【達成】    | ◎  |
| 2. 進路保障に向けた取組 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の進路希望実現に向けて進路指導の内容・体制を充実させ、進路実績の向上を目指す。</li> <li>●多様な進路を希望する生徒にきめ細かく対応するため、各セミナー別指導(国公立、指定校、看護、就職、公務員)の内容の見直しと充実を図り、生徒満足度が高い進路指導を展開する。 【進路指導部】</li> </ul> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入試制度に対応した指導を行う。</li> <li>・保育・公務員・看護の授業との連携を強化した指導を行う。</li> <li>・進路行事の合理化を図りながら、生徒個々の進路実現に活きる企画を調査・実施する。</li> <li>・学校休業の状況下、進路保証につながる取り組みを模索し、実施する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に3年生全員へのアンケートを実施すると共に、各セミナーのアンケートを実施し、満足度 83%以上を目指す。</li> </ul> | ○96%【達成】 |    |

|  |  |  |          |
|--|--|--|----------|
|  | <p>○規範意識・基本的な生活習慣の定着・向上に重点を置いた生徒指導を進める。</p> <p>●読書に対する関心を高め、学力の定着・向上に貢献する取り組みをおこなう。【図書係】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館だよりや図書委員の活動を通して啓発・向上に努める。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の学校改善調査において、図書室を利用すると答える生徒の割合を30%以上</li> </ul> <p>●問題行動(遅刻、交通マナー、訓戒、謹慎、懲戒等)を抑止し、生徒指導件数を少なくする活動をすすめる。【生徒指導部】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街頭での立番、日頃の声かけ等を行い、生徒との信頼関係を作っていく。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の生徒指導件数比10%減。</li> </ul> <p>●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に向けて感染対策を徹底する。【保健部】</p> <p>●健康観察の徹底と、感染症予防の対策を実施し感染症の集団発生を防ぐ。また長期欠席者の早期把握に努め、学年団・教科と連携し指導の充実を図る。【保健部】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止のために、「3密を避ける行動」・「手洗い・消毒の徹底」など掲示物や生徒対応の際に周知する。</li> <li>・疾患のある生徒の生活管理を徹底する。</li> <li>・生徒の保健室利用を好機ととらえ、問診等を通して生徒自ら生活習慣を改善できる力を養う。</li> <li>・生徒の健康状態について学年団・教科との連携を密にし、情報共有と指導を行う。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席者の減少(昨年度比70%)</li> <li>・学校感染症の罹患生徒の減少(昨年度比70%)</li> </ul> <p>●学業、友人関係等の悩みを抱えている生徒や特別な支援を必要とする生徒をスクールカウンセラーや発達支援員などにつなげ、担任、教科担当者とも連携しつつ生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができるようにする。【教育相談係】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒等について、保護者の同意が得られた生徒については、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する。</li> <li>・職員に向けて「教育相談だより」を年3回発行する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒の支援がスムーズにできたかどうか。</li> <li>・「教育相談だより」の情報により、教員の理解が進んだかどうか</li> </ul> <p>●卒業後の進路先でも通用する基本的な生活習慣を身につけさせる。遅刻を減らす。【3学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部の3学年担当者と連携をとり、指導にあたる。</li> <li>・遅刻の多い生徒の家庭と連絡を密にし、原因となる状況を改善する。</li> <li>・授業間の遅刻を含めて、担任が遅刻状況を把握、学年で集計して「見える化」し、生徒に示す。</li> </ul> | <p>○25%【未達成】</p> <p>○86%減【達成】</p> <p>○長期欠席者50%【達成】</p> <p>○1名のみ【達成】</p> <p>○5回発行【達成】</p> | <p>※</p> |
|--|--|--|----------|

|                   |   |   |                                     |
|-------------------|---|---|-------------------------------------|
|                   | <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校 授業遅刻の前年比 5%削減</li> </ul> <p>●面談の充実を図る。 【3 学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業再開後に面談週間を設け、全生徒を対象とする面談を実施するとともに、課題のある生徒について、学期ごとに面談する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談によって、生徒の課題を把握し、進路実現等につなぐことができたかどうか。</li> <li>・登校 授業遅刻の前年比 5%削減</li> </ul> <p>●登校 授業遅刻の削減 【2 学年】</p> <p>時間を守ることは基本的な生活習慣の一つであることを確認し、同時に授業規律の確立も念頭におきながら、集中して学習に取り組む雰囲気醸成する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任は HR の時間を利用して説諭する。</li> <li>・生徒指導部と連携して指導にあたる</li> <li>・学年集会や学年だより等でも折に触れて指導。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校 授業遅刻の前年比 5%削減</li> </ul> <p>●面談の充実を図る。 【2 学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業再開後に面談週間を設け、全生徒を対象とする面談を実施するとともに、課題のある生徒について、学期ごとに面談する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・面談によって、生徒の課題を把握し、高校生活の充実につなぐことができたかどうか。</li> </ul> <p>●長期の休校で乱れた生活リズムを見直し、規律正しい生活を送れるよう指導する。 【1 学年】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に 1 回の個人面談を行う。</li> <li>・昼休みに 4 階教室・廊下の巡視を行う。</li> <li>・朝の S HR で、スカート、ネクタイ点検を行う。</li> <li>・遅刻・欠席をしない、忘れ物をしない、提出期限を守る等、HR で声掛けを行う。</li> <li>・授業準備をして自席でチャイムを待てるよう、HR ・授業で徹底する。</li> <li>・定期テスト期間の学習計画と結果をシートで報告させる。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <p>各学期末にアンケートを実施し、「規律正しい生活を送れた」と回答した生徒を 80%以上とする。</p> | <p>○17%削減 【達成】</p> <p>○1 月現在 R01 延べ遅刻人数 265 人 R02 同 297 人 【未達成】</p> <p>○98% ・2 学期末 92% 【達成】</p> | <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> <p>※</p> |
| <p>3. 人権教育の推進</p> | <p>○生徒、教職員、保護者が差別につながる言動に出会ったときに気づくことができるように個別の人権問題に係わる知識をつける。</p> <p>●他者への思いやりを深めるため、丁寧な言葉使いと朝夕の挨拶を実践する。 【人権教育担当】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝夕や授業・学校行事の始め終わりに適宜生徒指導し、意識を植え付ける。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにおいて、「実践できた」が 80%以上を目指す。</li> </ul>   | <p>○「校則を守る生活ができている」 91% 【達成】</p>  |                                     |

## 改善課題

新型コロナウイルス感染症が学校生活に様々な影響を与え、年度当初の想定を超える対応が求められた。長期欠席者数、遅刻者数については、今後も丁寧な取組の中で、生徒の実態に対応した指導が必要となっている。

久居高校の今後について、アンケート結果や校内での協議の中で方向性を明確にすることができた。今後はその方向性をより具体的な形にしていく必要がある。

### (2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「

◎」: 最重要取組

| 項目              | 取組内容・指標  | 結果  | 備考 |
|-----------------|--|---|----|
| 1. 教職員の<br>資質向上 | <p>○授業参観、教科会の活用を通じて教職員の授業力をはじめとする力量向上に取り組む。</p> <p>●各教科に授業参観を促し、授業の方法や工夫について共有する教科会を行う。 【教務部】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム委員会にて、授業参観を促す。</li> <li>・授業参観の視点を提示し、事後検討を行いやすくする。</li> <li>・教科会で共有した授業の方法や工夫をカリキュラム委員会で提示する。</li> <li>・人権教育課事業「教育活動全体を通じた人権教育の研究」と連携した授業改善を進める。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員の授業参観数が1回以上。</li> <li>・現職教育を2回実施し、授業改善の意識の高まった職員80%以上。</li> <li>・生徒満足度調査で、授業関連の満足度80%以上。</li> </ul>   | <p>○平均2.9回【達成】</p> <p>○78%【ほぼ達成】</p> <p>○授業のすすめかた85% 授業のわかりやすさ78%【ほぼ達成】</p>   | ◎  |
| 2. 地域への<br>発信   | <p>○広報活動の内容や方法等を改善・充実させる。</p> <p>●中学生に対して魅力あるメッセージが届けられるように、オープンスクールの実施内容を大幅に見直す。 【総務部】</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校で何を学び何が実現できるかを明確に伝える。</li> <li>・暑さ等にも考慮して、効率のよい実施内容とする。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートにおいて、「内容が理解できた」「以前よりも本校に興味が出た」が、それぞれ80%以上を目指す。</li> </ul> <p>●広報活動の内容や方法等を改善し、効果的な広報とする。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な中学校訪問を通じて本校のカリキュラムの特色(単位制・高大連携等)をわかりやすく伝える。</li> <li>・学校紹介DVDを作成し、中学校へ配布する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期選抜の倍率をスポ科1.05倍・普通科1.10倍以上にする。</li> </ul> | <p>○新型コロナウイルス感染症の影響でアンケート未実施</p> <p>○前期選抜は確保、後期倍率 スポ科、0.72倍、普通科1.07倍【未達成】</p> |    |

|                          |   |   |          |
|--------------------------|---|---|----------|
| <p>3. 教職員の働きやすい環境づくり</p> | <p>○総勤務時間を縮減し、働きやすい環境づくりを推進する。</p> <p>●業務を精選する。 【教頭】<br/>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原則月2回の定時退校日を設定する。</li> <li>・会議資料の精選やデスクネットを活用し、会議時間の短縮をさらにすすめる。</li> <li>・45時間以上の過重労働職員の数を0人とする。</li> <li>・休暇取得を増加させる。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月2回の定時退校日（原則第2・4の月曜日）に定時に退校できる職員の割合80%を目指す。</li> <li>・放課後に開催された60分以内に終了する会議の割合100%を目指す。</li> <li>・休暇取得25日以上、うち年休取得15日以上を目指す。</li> <li>・年360時間を超える時間外労働者の延べ人数を0人とする。</li> <li>・月45時間を越える時間外労働者の延べ人数を0人とする。</li> </ul> <p>○部活動指導の工夫・改善、「部活動ガイドライン」への対応。</p> <p>●部活動休養日を設定する。<br/>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動休養日を原則週1回土・日（試合等がある場合は翌週）に設定する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週1回設定できた部活動の割合100%を目指す。</li> </ul> <p>●不祥事を根絶するため、職員に啓発を図る。 【管理職】<br/>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議等機会ある毎に、不祥事根絶のため情報提供を行う。</li> <li>・コンプライアンスミーティングを実施する。</li> </ul> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスミーティングを1回実施。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識が高まった教職員の割合100%を目指す。</li> </ul> | <p>○78% 【ほぼ達成】</p> <p>○97.4% 【ほぼ達成】</p> <p>○2月末現在16.7日10.6日 【未達成】</p> <p>○2月末現在6人 【未達成】</p> <p>○2月末現在43人 【未達成】</p> <p>○97% 【ほぼ達成】</p> <p>○79% 【未達成】</p> | <p>◎</p> |
|--------------------------|---|---|----------|

### 改善課題

昨年度より職員の勤務時間縮減の取組を行っており、前年度比では一定の成果があったが、業務内容の精選を進めると共に、勤務の偏りを改善することも課題である。

今年度は、人権教育の視点から、授業改善に取り組み、研究授業、協議を実施し、人権の視点にたった授業の構築に一定の成果があった。次年度は、この成果を生かしてわかりやすい授業の実践をさらに進める必要がある。

## 5 学校関係者評価

|                            |  |
|----------------------------|--|
| <p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p> | <p>今年度は、新型コロナウイルス感染症のため、ストレスを持つ生徒への対応が必要で、教育相談の担当が通信を5回発行し情報発信したことは評価できる。次年度も生徒への教育相談体制の整備を進めていただきたい。また、ICT教育に関連して、多様な生徒への丁寧な対応のため、オンライン授業の活用なども進めていただきたい。新型コロナウイルス感染症の影響で十分でなかった地域への発信も進めていただきたい。</p> |
|----------------------------|--|

## 6 次年度に向けた改善策

|              |  |
|--------------|--|
| 教育活動についての改善策 | 教育相談体制については引き続きその充実をはかり、校内での情報共有をさらに進めるとともに、生徒の出身中学校を始め、関連する機関との連携体制の整備を進めていきたい。また、ICT教育の推進について、推進担当の明確化等をはかり、ICT教育に取り組みやすい環境を整備していきたい。課題のある生徒については、必要に応じてオンライン授業の活用等を進めていきたい。地域への発信については、新聞部作成の学校新聞の地域への回覧依頼を再開する等の活動を通じて、本校への理解を進めていきたい。また、本校の方向性について、広報委員会による中学校への周知を図っていきたい。 |
| 学校運営についての改善策 | 教職員の過重労働時間の削減について、学校閉校日を増やすなどの目に見える形の対応とともに、意識改革を進めるために、仕事に優先順位をつけ、業務のスリム化をはかるようにする。   |